

(別添資料1)

事業所名

多機能型事業所 くらん

支援プログラム (多機能)

作成日

2024 年

8 月

1 日

法人 (事業所) 理念	社会に出るときに必要な力を身につけるために、自分の得意なことや苦手なことに気づき考えるきっかけとなるよう、様々な活動を行います。		
支援方針	利用者一人ひとりの特性や成長に合わせた療育を行います。活動の中で、出来たことに対し褒める評価を行い利用者が自信を持ち、達成感を職員一緒に共感し、更なる成長に繋げるようお手伝い、サポートします。		
営業時間	9 時	0 分から	17 時 0 分まで
	送迎実施の有無	あり なし	
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	1日の生活リズムの把握を行い、規則正しい生活が送れることを目標とする。 食事や睡眠の大切さを伝えるとともに、1日の生活の流れがスムーズになるために必要な支援を考え提供する。	
	運動・感覚	日常生活に必要な運動機能の向上を目指す。階段の昇り降りや着席の姿勢をはじめ、適度な睡眠に繋がるための運動習慣も身につける。 感覚過敏の特性に配慮しつつも、先入観にとらわれない視点を持って無理なく可能性を広げる経験を積み重ねる。	
	認知・行動	空間認知、危険認知に重点を置き、戸外活動を通して自立した行動を目指す。ケガや事故に繋がらないためにどうしたらよいかの判断ができるための療育を行う。	
	言語 コミュニケーション	言葉の遅れに関しては、職員の口の動きがわかるようマスクを使わず関わる。 SSTを通して個別に言葉のやり取りを繰り返し行うことで、表情や口の動きを組み取る訓練をする。絵本の読み聞かせも行う。 絵カードや言葉カードを使用して要求や指示が伝わる事でコミュニケーション力の向上を目指す。	
	人間関係 社会性	訓練や指定された活動ばかりではなく、集団での自由遊びの時間を大切に。会話や行動の中で起こった誤解やトラブルを見逃さず、なにが原因か？どうすればよかったか？なぜこうなったのか？を相手とともに考えることで、相手の気持ちを知る力も身につける。 戸外活動の機会も多く取り入れ、社会のルールやマナーを知り、自分のペースだけではなく社会の流れに沿って行動できる社会性を身につける。	
家族支援	日頃から送迎の際や連絡帳を通じて家族の方との会話を大切にし、些細な事でも相談できる信頼関係を構築する。年2回の個別面談を行い家庭での困りごとを聞き出し療育に繋げる。また年2回の保護者懇談会を行うことで、保護者間の困りごとの共有や支え合う関係性を作り、不安やストレスの軽減を図る。仲間意識を持つことで保護者の居場所を提供する。	移行支援	就学時、事業所移籍時等は関係機関と情報共有の為の連携会議を行う。 また書面など目で見てわかるものを作成することで、複数の支援者が統一した支援が行えるようにする。
地域支援・地域連携	事業所の周辺地域の子育て関係の窓口と連携を取り、周辺地域の子供たちが置かれている環境や需要を情報共有する。また地域のボランティア団体と連携を取り、事業所に来ていただき子供たちとの触れ合う時間を作る事で事業所のことを知っていただき地域で見守る環境を作る。	職員の質の向上	様々な研修参加や職員会議での個別事案の意見交換、統一支援の共有を行うことで、支援員としての自覚を養う。 また普段の指導訓練室内で月1回の現場指導を行う機会を設け、その場で支援を見直す場を経験することで支援の質を高め職員間で共有を行う。
主な行事等	夏まつり、クリスマス会、保護者懇談会、りんご狩り、お別れ遠足、宿泊体験等		